

今週のことば「**勇氣**」

《聖書》使徒言行録 2:1-11

勇氣

勇氣はどこからわいてくるのでしょうか。勇氣は目で確かめることもできません。でも、確かに勇氣はあります。勇氣がなければ人はなにもすることができません。困難にぶつかった時に、それに立ち向かっていけるのは、勇氣があるからです。勇氣のない人は一人もいません。ただ、強い勇氣を持っているか、弱い勇氣を持っているかの違いがあるだけです。

どんな困難な中であっても、どんなに自分がころんでも、その泥沼からはいあがれる力が、一人一人にあるはずです。ただ、自分のうちにある勇氣に信頼しなかつたり、自分にも勇氣があることに気づかない人が多いのです。

弟子たちも同じでした。イエスの死に直面して、隠れてしまったり、失望してみんなから離れていきました。自分たちの期待がうらぎられたので、もう希望を持つことができなかつたのです。しかし、その弟子たちをふるいたさせたのは、弟子たちも気づかなかつた勇氣でした。絶望した時に初めて、自分にも勇氣があることに気がついたので。今までは、イエスになんでもかんでも期待しすぎたのです。イエスについていけばなんとかなると思っていたのです。イエスの死

を通して、弟子たちは自分たちの中にも勇氣があることを見いだしたのです。

聖靈降臨

使徒言行録に伝えられている聖靈降臨の記事は、現代の私たちにとって受け入れにくいものです。そこで何が起こったのか、今から調べることはできません。確かに何かのできごとがあったのでしよう。失望していた弟子たちは勇氣を持って、全世界に向かってイエスの事を伝えて始めました。これには何かのきっかけがあったはずです。

弟子たちが勇氣を持って人々に語っていく時に、自分たちの変化を人々に示す必要がありました。自分たちはどうして変化したのか。当時の人々に説明するには、天から神の霊が弟子たち一人一人に注がれたのだといえればみんな納得しました。

今の私たちはこれでは納得できません。外から働きかけがあったというよりも、むしろ一人一人の心の中に、前から神の力、神の霊が働いていたのです。ただ、それに人々が気づかないだけなのです。人が病気をしたり、何かに失敗したりした時に、自分たちにも神の力が働いていて、決して失望しないと気づくのです。どんな人間にも、勇氣が与えられていることを示したのが、聖靈降臨のできごとなのです。

聖靈降臨の主日第1朗読B年（滝野）